

評価基準書

項目	評価の視点	得点	
まちづくり活動に係る人材育成実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状認識が的確で、今後の取組方針が適切なものとなっている。 ● 取り組んできた事業が、実施規模や回数、期間、参加者数などの客観的に計測できる点で、十分な実績があると評価できる。(インプット) ● 取り組んできた事業が、例えばメディアで紹介されるなど、社会的にインパクトを与えるものであったと評価できる。(アウトプット) ● 取り組んできた事業が、単発ではなく自律的に運営され、継続性(持続可能性)を有するものとなるよう設計されていると評価できる。 	20	
企画提案内容	受講者の募集について	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な事業告知の方法が明示されている。 ● 今後、まちづくりを担っていくべき人材(年齢・属性など)を適切に分析し、その対象に対する効果的なアプローチが計画されている。 ● 受講者を20人以上集められる方策が提示できている。 	15
	講演会・ワークショップについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の労働を担う人材及び地域における言論を担う人材など、要件を満たす適切な講師候補者が提示できている。 ● まちづくり活動についての学びを深めることができるよう、着地点を想定した有意義なワークショップの実施方法が提示できている。 	10
	合宿イベントについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 合宿イベントの開催場所候補や実施プログラムを始め、学びを深めるためのコンテンツや目指すべき成果など、開催の様子が具体的にイメージできる詳細な計画が提示できている。 ● グループ分けやメンターの配置、個別指導のあり方など、受講者に効果的な事業提案を行わせるための方策が提示できている。 	10
	伴走支援について	<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり活動の経験を有する者をメンターとして配置することやメンターとして果たすべき役割が具体的に提示できている。 ● 受講者に提案事業を実施させるための伴走支援のあり方(基本的な考え方、実施方法、頻度など)が提示できている。 	10
	独自提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たなまちづくり活動に参画する人材を、年度内に15人以上輩出するための具体的な方策が提示できている。 ● 提案された、受講者が参画することができる企画やイベントが、まちづくり活動について学びを深めるために効果的と考えられる。 ● 任意に提案できる自団体の強みや企画が、魅力的なものであり、事業推進にとって有効に作用すると考えられる。 	15
業務執行体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 配置スタッフの体制及び業務実績が事業実施にあたり適当である。 ● 受講者との連絡体制が適切に設計できている。 	10	
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 受講者が提案事業を実施することのできる年間スケジュールが計画できている。 	5	
見積金額	<ul style="list-style-type: none"> ● 見積金額が最も低い者を満点とし、提案限度額と同額を0点とする。 $\frac{\text{提案限度額} - \text{見積金額}}{\text{提案限度額} - \text{最低見積金額}} \times 5$ <p>※ 小数点以下は四捨五入する。</p>	5	
合計		100	

※ 最低基準点は見積金額に係る得点を除き、48点×出席委員数とする(3人の場合144点/2人の場合96点)。